

## 土木学会「景観・デザイン研究発表会」で優秀ポスター賞を受賞しました

地域景観ユニット

### 1. はじめに

地域景観ユニットの兵庫利勇研究員、松田泰明総括主任研究員、岩田圭佑研究員が、平成25年12月13日～15日にかけて東京工業大学・大岡山キャンパスで開催された、土木学会「第9回景観・デザイン研究発表会」において優秀ポスター賞を受賞しました(3名の連名での受賞)。

昨年度の受賞(松田泰明、南朋恵：郊外部の電線電柱類の景観対策における課題と効果的な対策手法に関する一考察)に引き続き2年連続の受賞となりました。

### 2. 景観・デザイン研究発表会の概要

この景観・デザイン研究発表会では、まちづくりや土木景観に関する様々な研究や設計、デザイン事例が発表され、活発な討議や意見交換を重視しています。また、分かりやすく、デザインの優れたプレゼンテーションやポスターが多いのも特徴です。今回も大学、研究機関、国や地方自治体、民間企業など約300人が参加し、活発な議論が行われました。

寒地土木研究所からは、受賞した発表のほかに、高田研究員が「平時の魅力につながる効果的な道の駅の防災機能向上策に関する一考察」、笠間研究員が「景観配慮に関するマニュアル等における記述内容の分析と良好な歩行空間整備に向けた課題について」、岩田研究員が「電線電柱類に関する郊外部での効果的な景観対策手法の提案に向けて」と題して、それぞれポスター発表を行いました。



写真-1 ポスターセッション会場の様子

### 3. 研究発表の概要

受賞した発表ポスターは以下のとおりです。

発表名：「北海道の郊外部道路におけるシークエンス景観の印象評価に関する一考察(シーニックバイウェイ大雪・富良野ルートでの走行実験から)」

執筆者：兵庫利勇、松田泰明、岩田圭佑

道路付属施設は必要な機能を確保するために整備されていますが、同時に道路景観への影響が大きいという課題があります。一方、これらは施設毎の基準やガイドラインに基づいて整備されることで、結果として道路空間全体では、施設の機能重複や過剰などが発生し、そのため景観阻害のほか道路本来の機能性や安全性の低下につながっている事例も少なくありません。

本研究では、必要な道路機能を確保しながら、良好な道路景観にも資する道路空間の最適化を目指すための景観の評価とその整備手法の開発を目的に、実道での被験者走行実験を行い、道路走行中に道路利用者が体験するシークエンス景観の印象評価を通じて、道路景観を左右する特定区間やその要素や要因、その関係性などを把握し、道路空間の機能や景観の向上につながる最適化について考察しました。

本成果が、道路景観を評価する技術として普及し、安全性や交通機能を確保しながら景観向上にも資する道路空間の整備につながることを期待しています。



写真-2 表彰状を手にする兵庫研究員

(文責：岩田 圭佑)